

保健行政の在り方

耳の相談ブースで助成推進を チラシ等で周知、連携も検討



みずの さち
水野 佐知 議員

問 特定健診の申し込み制移行に伴う40代・50代の受診支援（託児スペース設置等）や、補聴器助成を推進する健診会場での「耳の相談ブース」開設を求める。また、地域格差が大きい「黒潮元気体操」について、佐賀地区での巡回型教室の実施など、身近な健康増進の場づくりについて問う。

答 野村 健康福祉課長

特定健診の申し込み制は待ち時間を短縮し、受診率向上を図るもので、託児スペース等は今後検討したい。耳の相談ブースは体制面の課題から現時点で設置予定はないが、問診時の相談対応やチラシ配布、補助金周知を進める。民間や公的機関との連携も、会場スペースを確認しながら検討していく。元気体操は全地区拡大を目指し、立ち上げや年2回の体力測定などの支援を継続する。地域性に応じ、あったかふれあいセンターでの運動やウォーキングなども健康増進の場として発展させていく。リハビリ器具の個別貸出は管理上、行えないが、団体での利用希望があれば調整・相談に応じたい。

子育てと定住

拠点の充実と定住 促進を

安心の居場所と運 営の充実

問 定住子育てビジョン

と移住定住促進や、他地域を参考に、敷居の低い「実家のような子育て拠点」の充実。また、移住促進へ向けたDIY補助の新設や空き家改修補助の上限引き上げ、若者や移住者が主役となる「若者・移住者会議」の常設と伴走支援を求めるがどうか。

答 渡辺 教育次長

現在は、保育所内でのセンター開設や出張ひろば等で子育て支援を行っている。提案のあった先進事例（民家活用や先輩ママによる相談体制）は参考とすべき取り組みであり、今後も良い点を積極的に取り入れながら、誰もが身構えず安心して



利用者のメッセージ



休憩室(ベッドもあります)

立ち寄れる居場所づくりと運営の充実に努めていく。



オマル



普段の家の感覚で遊ぶ和室の遊び場

県東部にある地域子育て支援拠点施設